森林レンジャーがゆく（46）

キノコのシーズンが始まります

本格的なキノコのシーズンになりました。キノコは、秋が旬のイメージの方が多いと思いますが、あきる野で見られるキノコは初夏から夏にかけてが、ピークになります。

昨年は、梅雨に雨が少なく、さらに夏にも雨が少なかったことを覚えていますか？そのため、昨年は、このシーズンのキノコがあまり見られませんでした。今年の夏は、エルニーニョの影響を受けると言われていますが、雨量が多いとたくさんのキノコが見られます。雨がやみ、暑い日が１日あれば、森の中にたくさんのキノコが顔を出します。残念ながら、あきる野では、食用に適したキノコは少なく、きのこ狩りなどの対象になりません。変わった色や形を眺めて楽しむことにとどめてください。特にこの時期は、大型のイグチの仲間が目に付き始めます。イグチの中には食用もありますが、毒キノコもあり、見分けが難しいので手を出さないことが一番です。

イグチの仲間は菌根菌類に分類されます。この菌類は樹木の根に侵入し、土中に広げた菌糸から養分を木の根に供給して、その代わりに樹木が光合成で作った養分をもらい、生活しています。樹木と共生して生活する菌類です。山の尾根など、痩せ地でも大木が育つ理由とされています。一般的にキノコと言うと、シイタケのように枯れ木・枝を腐らせながら育つイメージが強く、このようなキノコは腐朽菌類と呼ばれ、落ち葉・枯れ枝などを分解して森の土を作ります。

森の中でキノコを見つけたら、食べられる、食べられないを見分けるのではなく、森の土を作るキノコ、木を育てるキノコと区別して見ながら歩いてみるのも面白い観察方法です。目が慣れるとオチバタケの仲間など、とても色鮮やかな小さいキノコを見つけることもあります。また、菌根菌も周りの樹木を見て、どの木の根と共生しているか想像してみるのも面白いです。

（杉野）